

まちづくり、
まずは笑顔で
こんにちは

第2回市役所等公共施設 整備ワークショップ

H30.4.21 長久手市総務部財政課

目次

1. 前回のワークショップのふりかえり
2. 上位計画における市役所の位置づけについて
3. グループワーク



1. 前回のワークショップのふりかえり

- ① 市民にとって、今後の市役所はどのようなもので、どうあるべきかを検討していただきます。
- ② 設計に向けての仕様書に、市役所にとってどういう付加機能があったらいいかなどの項目の提案をいただきます。
- ③ 他の施設や計画に関連する事柄についても関連部署と連携していきます。

本庁舎

昭和42年竣工(**築50年**経過、長久手市の
施設で**一番古い**施設)

平成16年耐震改修

昭和62年東側新館増築(**築30年**経過)

西庁舎

昭和49年竣工(**築43年**経過)

平成20年耐震改修

北庁舎

平成22年竣工

○市役所は、竣工後、約30年から50年を経過しており、安全性を高める意味でも再整備が必要。

近年、愛知県下(人口10 万人未満の都市)で
建て替えられた市役所庁舎の規模

都市名	人口	庁舎規模
犬山市	75,000 人	9,270 m ²
みよし市	63,000 人	10,106 m ²
岩倉市	47,000 人	9,140 m ²
瀬戸市	131,000 人	13,500 m ²

総務省基準による算出結果及び事例規模を勘案して、
庁舎面積**10,000m²**を想定

ただし、総務省基準には、市民交流スペース、売店、防災対策機能等の付加機能を含まないため、別途考慮する必要がある。
公民館・子育て支援センター・高齢者生きがいセンター(床面積約2,000m²)は含まないため、別途考慮する必要がある。

候補1 現在の市役所での整備

法規制により、市街化調整区域での庁舎建設は不可
ただし、**現在の敷地での建設は可能※仮庁舎が必要**
公民館、子育て支援センター、生きがいセンターの建設は可能

候補2 リニモ駅周辺での整備

市では駅周辺において新庁舎建設に**十分な市有地(約1ha)**
を保有していない。

※土地を新規に購入する場合

はなみずき通り駅、杵ヶ池公園駅周辺の地価公示価格から
新庁舎建設費とは別に**土地購入費が約15億円必要となる。**

候補3 現在の市役所周辺での整備

市役所周辺を市街化編入を行うことにより、既存区域のほか
市役所北側においても建設が可能

- ① **安心・安全の拠点としての庁舎
防災機能**
- ② **行政サービスが向上する庁舎
市民協働・活動、情報発信機能**
- ③ **誰もが利用しやすく、人にやさしい庁舎
ユニバーサルデザイン**
- ④ **環境に配慮した庁舎
環境配慮機能**

1 公共施設に関わる3つの問題

1. 施設の急速な老朽化

公共施設の多くは、都市化の進展とともに、国の施策方針等に当たって集中的に整備されてきた。これらのストックを一斉に更新する時期が迫っている。

2. 人口の減少と少子化・高齢化

人口減少、少子化・高齢化が進み、住民のライフスタイルの変化とともに、公共サービスのあり方が問われている。

3. 厳しい財政状況

生産年齢人口の減少や、扶助費の増加等により、自治体の財政状況は厳しさを増し、必要性の高い公共施設まで良好な状態で保てなくなる恐れがある。

1 長久手市における公共施設の特徴

- 人口・人口密度からみて、一人あたり公共施設保有量は県内平均レベル
- 人口増加に合わせて施設が建設されてきたが、老朽度はほかの自治体に比べて低い
- 今後も人口は増加傾向にあり、施設需要は高まり、今後も市役所等施設の整備も想定される
- リニモ沿線や主要道沿線には公共施設が少ない
- 公園、博物館、大学、大型商業施設など、社会資本の充実度はきわめて高い

→市役所も公共施設のひとつ。整備も運営も税金で賄われる
市全体の施設やサービスのあり方の一環として考えるべき

市役所等整備ワークショップへの期待

○ 長久手市の状況に応じた計画立案への期待

今後整備される施設を含む全公共施設の中での位置付け
市役所が果たすべきサービスや機能のあり方
場所に根付いた地域や空間の価値を見極める

○ 行政の枠にとらわれない柔軟な発想を

市民のニーズの実態に根付いた公共サービスのあり方
地域住民や民間企業ならではの楽しい発想を
“市民ができることは市民がやる”なら市役所はどうあるべき

○ これからの公共施設整備のルールづくりへ

市民、行政、民間等多くのステークホルダーにとって
利便性、経済性、安全性など多様な視点からの検討
市民参加による整備の方法を

施設見学～あらためて現状の建物がどうなっているか確認しました～



課題となっている
建物の老朽化や
スペース不足など
を見て回りました



全体発表～最後にグループで出た意見を全体で共有しました～



Aグループ	市民が考えることと、専門家が考えることをまず分けて考える必要がある。
Bグループ	災害時に安心安全な建物であってほしい。建替えを前提で進めればいいが、場所はみんなが集まれる場所がいい。
Cグループ	身近な施設になるような複合化をしてほしい。岩作城趾など歴史的なことも考えた方がいい。
Dグループ	市役所は市民にサービスを提供する場所なので、利便性の良いところに建てた方がいい。地域の団体と連携できる施設になってほしい。

2. 上位計画における市役所の位置づけについて

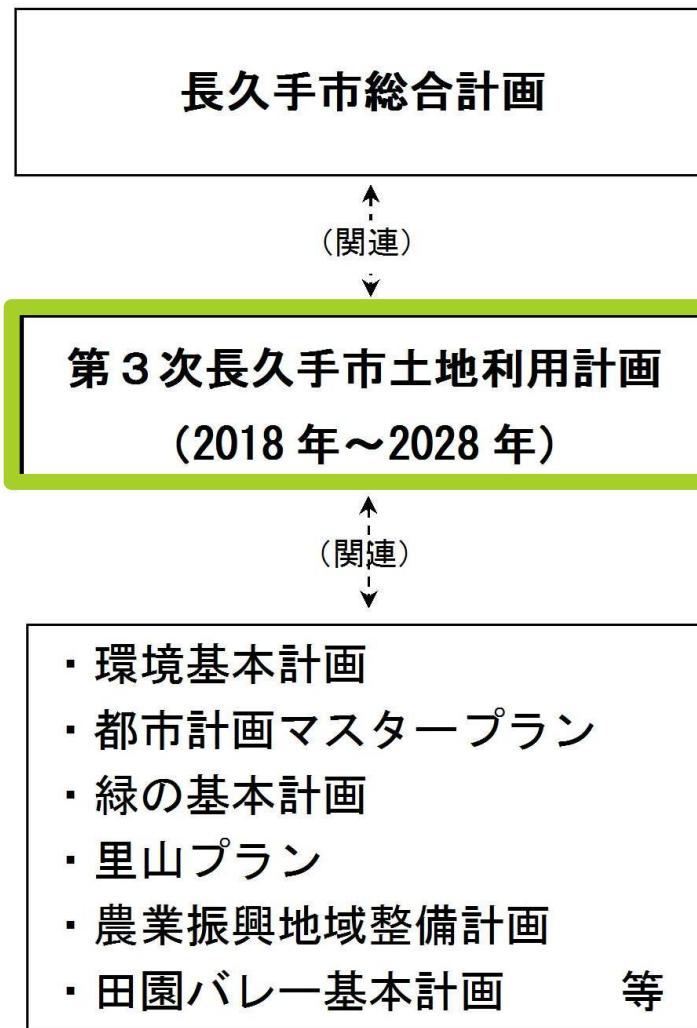
1 第3次長久手市土地利用計画の位置づけ

■本市の今後の総合的かつ計画的な土地利用のあり方を示すもの

■計画期間

2018(H30)年度から
2028(H40)年度まで

■計画の位置付け



■ 災害に強い都市環境形成

- ・老朽化が進んでいる市庁舎は、防災拠点としての機能を充実させることが必要

■ 高齢化への対応

- ・高齢者をはじめ多様な世代が健康に暮らすため、健康増進を図る機能を効果的に配置することが必要

■老朽化した市庁舎を建て替えることによる防災拠点としての機能を充実

■高齢者をはじめ多様な世代が健康に暮らすため健康づくりセンターの機能を備えた総合体育館の整備

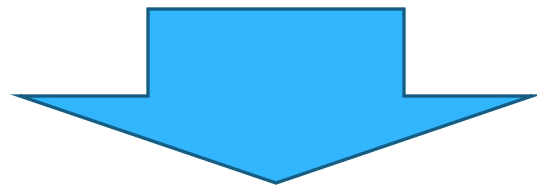
■市役所周辺において都市機能が集積する複合拠点の形成に向けた土地利用の展開

4 土地利用構想図

Ⅳ 土地利用構想図

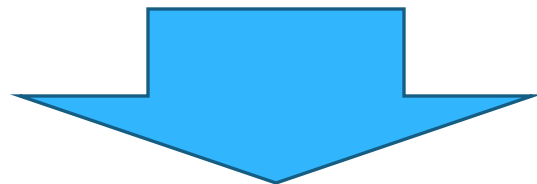


H30年3月 第3次土地利用計画 策定



**H30年度
農業振興地域整備計画
改定**

**H30年度～H31年度
都市計画マスタープラン
改定**



市街化区域編入を前提に事業を進めます

3. グループワーク

テーマ：市役所の立地について考えよう

ワークショップ 話し合いのルール

- 1. 人の意見は最後までよく聞く**
- 2. 思いついたことは言ってみる**
- 3. 否定しない**
- 4. 全員が意見を出す**
- 5. その場を楽しむ**